

Alexander Gadjev Piano Recital

思うにアレクサンダー・ガジェヴは、現代ヨーロッパのピアノズムをになう最も重要な人物の一人である。”

Mario Messinis, 2013年プレミオ・ヴェネツィア・コンクールにて

“ガジェヴは、音楽を「物語る」天性によって聴き手を陶醉させる、稀有な才能の持ち主である。振り返れば、バッハ／ブゾーニ編曲の《シャコンヌ》に挑んだ彼の演奏は、今回のコンクールが達した極致の一つであり、私自身、心から魅了された。ガジェヴは、真のエLEGANSと情熱を兼ねそなえている。”

Sergey Babayan, 2015年浜松国際ピアノコンクールにて

“ガジェヴの即興の才と驚くべき分析力は、彼の指から生まれるすべてのものを活気づけており、それを後押ししているのが、完全無欠なテクニックと、強弱・音色を鋭敏にとらえる耳である。”

Jed Distler (グラモフォン誌), 2021年ショパン国際ピアノ・コンクールにて

アレクサンダー・ガジェヴ(ピアノ)

Alexander Gadjev, Piano

2021年10月、第18回ショパン国際ピアノ・コンクールで第2位及びクリスチャン・ツィメルマン賞(ソナタ最優秀演奏賞)を受賞。

2021年7月、シドニー国際ピアノ・コンクールで優勝。

2018年、モンテカルロのワールド・ピアノ・マスターズで優勝。

2015年、第9回浜松国際ピアノ・コンクールで優勝および聴衆賞を受賞。

ゴリツィア(イタリア)でピアノ教師である両親のもとに生まれる。9歳でオーケストラと初共演、10歳で初リサイタルを開いた。17歳で優等な成績をおさめ学位を取得したことで、イタリアの教育機関で最高評価を得た若手音楽家だけが競うコンクール「プレミオ・ヴェネツィア」(2013年)への出場を許され、覇者となった。その後2015年から現在まで出場するコンクールでは、ほぼすべて優勝している。2019年には BBCニュー・ジェネレーション・アーティストに選ばれた。

これまでルイーダ指揮／RAI国立響、ゲルギエフ指揮／マリインスキー劇場管、ボレイコ指揮ワルシャワ・フィルをはじめ、指揮者ではテミルカーノフ、ヴィト、井上道義、高関健、山田和樹らと共演している。今後はハレ管、ミラノ・ヴェルディ響などと共演を予定。音楽祭への参加も多く、ヴェルビエ音楽祭やオールドバラ音楽祭などに参加している。